

陸連時報 三

2018
平成30年

2 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2018年度主要競技会日程(案).....	230
2018年 年頭にあたって(会長 横川浩).....	231
理事会報告.....	232
第212回IAAFカウンシル会議報告/第88回AAAカウンシル会議報告(会長 横川浩).....	234
JAAFビジョン.....	235
2017-2018ダイヤモンドアスリート認定式及び修了式/第1回リーダーシッププログラム 報告 (ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介).....	236
Don Babbitt氏 回転投法クリニック報告 (医事委員会トレーナー部委員 大山圭悟、強化委員 岡野雄司).....	238
国際陸連(IAAF)キッズアスレティックス セミナー参加報告(普及育成委員会普及育成部 岸政智).....	239
2017年度日本陸上競技連盟 競技運営委員会研修会(競技運営委員会).....	240
JAAFアスレティックス・アワード2017報告.....	241
2017年度全国区域技術役員会議報告(施設用器具委員会).....	242
大会観戦ガイド.....	243
陸協NEWS.....	244
事務局からのお知らせ.....	246

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2018年度主要競技会日程(案)

※主要競技会日程は、2018年3月の理事会で最終承認されます。

主催・共催競技会			主要競技会			国際競技会		
期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月	15(日)	102 日本選手権 50km 競歩	7(土)	★ GP 金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)			
	15(日)	20 長野マラソン	21(土)~22(日)	★ GP 出雲陸上	県立浜山公園(島根)			
			21(土)~22(日)	★ GPP TOKYO Combined Events	駒沢(東京)			
			22(日)	★ GPP 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)			
5月			22(日)	★ 8 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜			
			29(日・祝)	★ GPP 織田記念陸上	広域公園(広島)			
	20(日)	ゴールデングランプリ	3(木・祝)	★ GPP 静岡国際陸上	エコパ(静岡)	5(土)~6(日)	28 世界競歩チーム選手権	太倉(中国)
		ヤマスタジアム長屋(大阪)	5(土・祝)	★ GP 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)	調整中	アジアグランプリ	調整中
6月			5(土・祝)	★ GP ゴールデンゲームズinのべおか	延岡(宮崎)			
			6(日)	★ GP 木南道孝記念	ヤマスタジアム長屋(大阪)			
			13(日)	★ 28 仙台国際ハーフマラソン	宮城			
	16(土)~17(日)	64 全日本中学通信陸上	3(日)	★ GP 布勢スプリント	布勢総合(鳥取)	7(木)~10(日)	18 アジアジュニア選手権	岐阜(岐阜)
16(土)~17(日)	102 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	3(日)	★ GP 田島記念陸上	維新百年記念(山口)			
22(金)~24(日)	102 日本陸上競技選手権	長野市営(長野)	15(金)~17(日)	○ '18 日本学生個人	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)			
7月			24(日)	★ 33 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道			
			8(日)	★ GP 南部記念陸上	厚別(北海道)	8(日)	5 日中韓3カ国交流	厚別(北海道)
8月			21(土)	★ 58 実業団・学生対抗	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川)	10(火)~15(日)	17 U20 世界陸上競技選手権	タンペレ(フィンランド)
	2(木)~6(月)	71 全国高校陸上						
	10(金)~12(日)	53 全国定通制高校陸上	5(日)	★ 43 蔵王坊平クロスカントリー	上山(山形)			
	18(土)	34 全国小学生陸上	26(日)	★ '18 北海道マラソン	北海道			
9月	18(土)~21(火)	45 全国中学陸上						
	18(土)~19(日)	53 全国高専陸上						
	25(土)~26(日)	6 全国高校陸上選抜						
			7(金)~9(日)	○ 87 日本学生対校	等々力(神奈川)	5(水)	デカネーション	ソントビル(フランス)
10月			21(金)~23(日)	★ 66 全日本実業団	ヤマスタジアム長屋(大阪) / ヤマスタジアム長屋(大阪)	8(土)	30 IAU100km世界選手権	スパイターティン(ロシア)
			22(土)~24(月・祝)	★ 39 全日本マスターズ	布勢総合(鳥取)	8(土)~9(日)	3 コンチネンタルカップ	オストラバ(チェコ)
	5(金)~9(火)	73 国民体育大会	8(月・祝)	○ 30 出雲全日本大学選抜駅伝	島根	6(土)~18(木)	3 ユースオリンピック	アモスアレス(アルゼチン)
	12(金)~14(日)	49 ジュニアオリンピック	21(日)	57 全日本50km競歩高島	山形			
11月	19(金)~21(日)	34 U20日本選手権	28(日)	○ 36 全日本大学女子駅伝	宮城			
	19(金)~21(日)	12 U18日本選手権						
	27(土)~28(日)	102 日本選手権リレー	4(日)	○ 50 全日本大学駅伝	愛知・三重			
			11(日)	34 東日本女子駅伝	福島			
12月			18(日)	8 神戸マラソン	兵庫			
			25(日)	38 全日本実業団女子駅伝	宮城			
			25(日)	8 大阪マラソン	大阪			
	2(日)	72 福岡国際マラソン	9(日)	'18 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)			
2019 1月	9(日) 予定	4 さいたま国際マラソン	16(日)	49 防府読売マラソン	山口			
	9(日)	21 小学生クロスカントリーリレー	23(日・祝)	37 山陽女子ロードレース	岡山			
	16(日)	26 全国中学駅伝	30(日)	○ '18 全日本大学女子選抜駅伝	静岡			
	23(日・祝)	69 30 全国高校駅伝						
2月	13(日)	37 都道府県対抗女子駅伝	1(火・祝)	67 元旦競歩	東京			
	20(日)	24 都道府県対抗男子駅伝	1(火・祝)	63 全日本実業団対抗駅伝	群馬			
	27(日)	38 大阪国際女子マラソン	27(日)	'19 大阪ハーフマラソン	大阪			
	2(土)~3(日)	'19 U20日本室内大阪	3(日)	68 別大マラソン	大分			
3月	調整中	4 全国中学生クロスカントリー	3(日)	73 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川			
	17(日)	102 日本選手権 20km 競歩	10(日)	59 唐津10マイル	佐賀			
	23(土)	102 日本選手権クロスカントリー	10(日)	47 実業団ハーフマラソン	山口			
	23(土)	34 U20日本選手権クロスカントリー	17(日)	30 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
3月			17(日)	53 青梅マラソン	東京			
			17(日)	'19 熊本城マラソン	熊本			
			17(日)	'19 京都マラソン	京都			
	'19 東京マラソン	東京	10(日)	○ 22 日本学生ハーフマラソン	東京			
	'19 名古屋ウィメンズマラソン	石川	17(日)	○ 13 日本学生20km競歩	石川	17(日)	アジア陸上競技選手権・20km競歩	能美(石川)
	43 全日本競歩能美	石川	17(日)	○ 22 日本学生女子ハーフマラソン	島根	30(土)	43 世界クロスカントリー選手権	オーフス(デンマーク)

※ 74 びわ湖毎日マラソン 日程調整中

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

※ニトロアスレチック 日程/場所調整中

2018年 年頭にあたって



新年、明けましておめでとうございます。

2018年を、可能性が満ちあふれた未来へ私たちができることを考える年としていきたい。年の初めにあたり、そう決意を新たにしております。

昨年5月、日本陸上競技連盟は「JAAF VISION 2017」を発表いたしました。いま改めて、陸上競技の価値を問い、国際競技力の向上、トップアスリートが活躍し国民に夢と希望を与える、ウェルネス陸上の実現、すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境をつくるという2つのミッションを掲げました。そして、2028年に「世界のトップ8 アスレティックファミリー 150万人」、2040年に「世界のトップ3 アスレティックファミリー 300万人」というビジョンを取りまとめました。コンセプトは、よりアスレティックでいよう、ライブのアスレティックを体験しようという「LIVE ATHLETIC」。2020年東京オリンピック・パラリンピック、その先へ私たちは何を残すべきか、その先の未来へ私たちとともに一歩を踏み出してまいりましょう。

2017年のシーズンを振り返ると、まず挙げられるのが、8月、イギリス・ロンドンで開かれた第16回世界陸上競技選手権大会での男子50km競歩陣の快挙です。2つのメダルに加えて5位に入賞、出場選手3人すべてが入賞する結果を成し遂げました。男子4×100mリレーでの銅メダルも高く評価出来ます。5人のスプリンターの雄姿は、国際舞台での活躍を夢に競技に取り組んでいる多くの若いアスリートに勇気と活力を与えてくれました。ロンドン世界選手権で3つのメダルを獲得し、世界に注目された「TEAM JAPAN」を継承し、日本陸上競技界は更なる挑戦をしてまいります。

そして、9月9日。桐生祥秀が、男子100mにおいて、日本人選手初の9秒台、9秒98を樹立し、日本陸上競技界の今までの思い、悲願を達成いたしました。来る東京2020に向けて、多くの種目で、新たな次元に果敢にチャレンジし、今まで越えられなかった壁を打ち破ることを期待したいと思います。ジャカルタ2018アジア大会、ドーハ2019世界選手権を経て、東京2020、夢の舞台はやってきます。

これから世界へ羽ばたくアスリートを育成することは、私たちの重要な使命です。そのためには、育成・強化システムのフラッグシップモデルを構築するべく、世界の大舞台での活躍を期して各種施策を推し進め、ベテラン勢の円熟味の増大とともに、将来を担う若い芽を育ててまいります。競技全体の底上げが、未来を照らす光へとつながります。更に、日本が世界の舞台で活躍するためには、競技者のみならず指導者が国際的な経験や指導力を身に付けることが喫緊の課題と考えております。指導者は、陸上競技の裾野の拡大やジュニア・ユース競技者の育成、トップレベルの強化など、あらゆる場面で欠かせない存在です。本連盟は、国際的な指導者の養成を目標に掲げ、様々な施策に取り組んでまいります。

スポーツ界を取り巻く環境は、社会経済とも密接に関係しており、変化や進化を続けております。日本は世界のスポーツ界から、スポーツの価値をレガシーとしてどのように残せるか注目されております。本連盟は、世の中の流れに対応し、陸上競技界を牽引する役割を果たすため、国際陸上競技連盟とともに組織力を更に充実させていき、スポーツの振興はもとより、日本陸上競技界の根本を支えて頂いている加盟団体、協力団体をはじめとする地域や関連団体との連携をより進め、競技者も含めた多くの関係者とともに歩み、環境保全や社会貢献への積極的な取り組みも続けてまいります。

今一層、皆様のご理解、ご支援をお願いいたしましてご挨拶いたします。

公益財団法人日本陸上競技連盟
会長 横川 浩

理事会報告

第47回理事会

日時：2017年12月19日（火）

13時04分～15時46分

場所：セルリアンタワー東急ホテル
地下2階 ボールルーム

【議事内容】

出席者26名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1. 2018年度主要競技会日程

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、2018年度主要競技会日程が承認された。

(本号230頁及び本連盟WEBサイト

<http://www.jaaf.or.jp/pdf/competition/2018calendar.pdf>参照)

2. 第102回日本陸上競技選手権大会参加資格

麻場強化委員会ディレクターより、資料に基づき説明があり、第102回日本陸上競技選手権大会の参加資格が承認された。(資料1参照)

3. 第102回日本陸上競技選手権大会・混成競技参加資格

麻場強化委員会ディレクターより、資料に基づき説明があり、第102回日本陸上競技選手権大会・混成競技の参加資格が承認された。(資料2参照)

4. 第75回(2020年度/鹿児島)

第76回(2021年度/三重)国民体育大会の実施種目

麻場強化委員会ディレクターより、資料に基づき説明があったが、次回2018年3月開催の理事会において、再度、協議することとなった。

また、尾縣専務理事より、前回、9月28日開催の第46回理事会で協議された2018年度、福井で行う第73回及び2019年度、茨城で行う第74回国民体育大会での男女混合4×400mリレー種目の追加について、日本体育協会の承認を得られず、実施を見送る旨、報告された。

5. ジャカルタ2018アジア競技大会選手報奨金

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、ジャカルタ2018アジア競技大会選手報奨金が承認された。

[ジャカルタ2018アジア競技大会選手報奨金]

・個人種目優勝者 100万円

・リレー種目優勝者 200万円をいずれかのラウンドに出場した全ての選手で按分

6. 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程の改定

高木施設用器具委員長より、資料に基づき説明があり、公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程の改定が承認された。(資料3参照)

7. 栄章規程の改定

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、栄章規程

の改定が承認された。

【改定箇所】

アスレティック・アワードの名称をアスレックス・アワードに変更したことにより、栄章規程第2条、第17条及び栄章授与者推薦基準を改定。

8. 公認競技会規程の改定

鈴木競技運営委員長より、資料に基づき説明があり、公認競技会規程の改定が承認された。

【改定箇所】

(公認競技会の主催)第3条

10. 道路競走競技会において、本連盟、加盟団体、加入団体(ただし郡市区町村陸上競技協会に限る)、地域陸上競技協会が共催または主管し、且つ本連盟が別途定める運営基準を遵守することを条件に、本連盟は、地方公共団体その他本連盟が認める団体に、当該競技会について、公認競技会を主催する権利を委譲することができる。

〈報告事項〉

1. 第16回アジアマラソン選手権大会(2017/東莞)報告
麻場強化委員会ディレクターより資料に基づき、2017年11月26日、中国・東莞において開催された第16回アジアマラソン選手権大会の報告がされた。

2. 競技規則の改定

鈴木競技運営委員長より資料に基づき、競技規則第265条より、20歳以上にこの記載はないこと、IAAF規則をそのまま翻訳して記載したため国内の事情に適合しないため、(※7300点を超える場合のみ公認)の規定を削除することが報告された。

3. 競技用器具検定規程の改定

高木施設用器具委員長より資料に基づき、競技用器具検定規程の改定が報告された。

【改定箇所】

・(検定を要する用器具)第2条

2. 投てき器具を修理したときには、再検定を要する。

・(検定料)第6条

固定障害物(バー)1台 1,080円

4. 陸上競技場公認に関する細則の改定

高木施設用器具委員長より資料に基づき、投てき可能人工芝の導入、規則変更に伴う全天候舗装用レーンマーキング色分け標準表の変更、用器具一覧の整理による陸上競技場公認に関する細則の改定が報告された。

5. 国際陸上競技連盟ポイントランキング制度の導入

尾縣専務理事より、国際陸上競技連盟によるポイントランキング制度の導入の方向性が報告された。

なお、非公開において、伊東浩司理事・強化委員長の辞任に伴い、強化委員長の交代について、資料に基づき説明があり、麻場一徳強化委員長の同日付けでの就任が承認された。また、「評議員会に推薦する理事候補者」、「評議員会の開催」が承認された。

資料1

第102回日本陸上競技選手権大会 参加資格

1. 参加資格

2018年度本連盟登録者で、下記の(1)から(4)のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍競技者を含む)。

但し、男女の5000m、10000mでは日本選手権参加標準記録Aを満たし、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位6名までをオープン参加として出場を認める。

(1) 第101回日本陸上競技選手権大会の優勝者(但し、その種目に限る)。

(2) 参加標準記録Aを突破した競技者。

(3) 第101回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走で下記の成績を取った競技者。

1) 男子10000m

①シニア男子10kmの優勝者。

②シニア男子10kmの第2位、第3位の競技者で、男子10000mの参加標準記録Bを満たした競技者。

2) 女子5000m/女子10000m

①シニア女子8kmの優勝者(但し、女子5000m又は女子10000mのどちらか1種目に限る)。

②シニア女子8kmの第2位、第3位の競技者で、女子5000m又は女子10000mの参加標準記録Bを満たした競技者(但し、参加標準記録を満たした種目に限る)。

(4)・2018年度の地域選手権が、2018年5月27日までに開催された場合は、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。

開催されていない場合は、2017年度の地域選手権各種目

- 3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。
- ・本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
- ・開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。

2. 参加標準記録
下記参照

3. 参加標準記録有効期間

記録の有効期間は2017年1月1日～2018年5月27日まで。

4. その他

- (1) 室内競技会の記録も有効とする。
- (2) 800m(含ハードル)までの記録は電気時計(写真判定装置)で計測したもののみ有効とする。
- (3) エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、上記参加資格に記載される(1)～(4)を優先順位として出場者を決定する。

第102回日本陸上競技選手権大会 参加標準記録

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10"40	10"50	100m	11"75	11"85
20"80	20"95	200m	24"25	24"35
46"60	46"85	400m	54"80	55"10
1'49"80	1'50"30	800m	2'08"80	2'09"80
3'45"00	3'46"50	1500m	4'21"50	4'23"00
13'43"00 (3000m:7'55"00)	13'52"00	5000m	15'40"00	15'50"00
28'20"00	28'45"00	10000m	32'30"00	33'00"00
13"95	14"10	110mH / 100mH	13"80	13"90
50"42	50"82	400mH	59"30	59"70
8'50"00	8'55"00	3000mSC	10'25"00	10'35"00
2m17	2m15	走高跳	1m76	1m73
5m30	5m25	棒高跳	3m80	3m70
7m75	7m65	走幅跳	6m05	6m00
16m00	15m80	三段跳	12m60	12m40
16m10	15m90	砲丸投	14m20	14m00
51m50	50m50	円盤投	47m00	46m00
64m00	62m50	ハンマー投	56m00	54m50
74m50	73m50	やり投	54m00	53m00

資料2

第102回日本陸上競技選手権大会・混成競技 参加資格

1. 参加資格

2018年度本連盟登録競技者で、次の(1)から(3)のいずれかに該当し、日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍を有する競技者を含む)。

- (1) 第101回日本陸上競技選手権大会・混成競技優勝者。
- (2) 参加標準記録Aを突破した競技者。
- (3) ・2018年度の地域選手権が2018年5月22日までに開催された場合、各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。

開催されていない場合は2017年度の地域選手権各種目3位以内に入賞した競技者で、参加標準記録Bを満たした競技者。
・本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
・開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。

2. 参加標準記録

- (1) 男子十種競技 A 7050点 B 6950点
- (2) 女子七種競技 A 4900点 B 4800点

3. 参加標準記録有効期間

- (1) 記録の有効期間は2017年1月1日～2018年5月21日まで。

4. その他

- (1) 公認記録は、競技規則第260条27を満たすものとする。[第260条27一部抜粋: 風速を計測する種目においては、平均秒速(個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数でわったもの)は、2mを超えてはならない。]
- (2) エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。その場合、上記参加資格に記載される(1)～(3)を優先順位として出場者を決定する。

※~~~~~の部分は調整中

資料3

公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程の改定

変更~~~~~追加

現行	改定																							
<p>～該当事項のみ抜粋～ 第3条 公認競技場はつぎの4種類とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1種</th> <th>第2種</th> <th>第3種</th> <th>第4種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インフィールド</td> <td>天然芝とする</td> <td>天然芝とする</td> <td>天然芝とする</td> <td>人工芝でもよい</td> </tr> </tbody> </table>		第1種	第2種	第3種	第4種	インフィールド	天然芝とする	天然芝とする	天然芝とする	人工芝でもよい	<p>～該当事項のみ抜粋～ 第3条 公認競技場はつぎの4種類とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>第1種</th> <th>第2種</th> <th>第3種</th> <th>第4種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インフィールド</td> <td>天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする</td> <td>天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする</td> <td>天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする</td> <td>人工芝でもよい</td> </tr> </tbody> </table>					第1種	第2種	第3種	第4種	インフィールド	天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする	人工芝でもよい
	第1種	第2種	第3種	第4種																				
インフィールド	天然芝とする	天然芝とする	天然芝とする	人工芝でもよい																				
	第1種	第2種	第3種	第4種																				
インフィールド	天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする	天然芝・投てき 実施可能な 人工芝とする	人工芝でもよい																				
<p>【注】自転車競技走路を併設したものは第何種乙とする。 2. 室内競技場、屋外における競技場以外での競技会の陸上施設(以下「屋外種目別施設」という。)は、公認競技場として扱う。</p> <p>付則 1 国際陸上競技連盟(以下「IAAF」という。)認証のクラス1、クラス2競技場の資格を取得するための申請は、国内の第1種公認競技場でなければならない。ただし、公認競技場において世界記録およびエリア記録が樹立した場合は、第1種公認競技場以外でもIAAF認証のクラス2競技場の資格を取得するための申請をすることができる。</p>	<p>【注】自転車競技走路を併設したものは第何種乙とする。 2. 室内競技場、屋外における競技場以外での競技会の陸上施設(以下「屋外種目別施設」という。)は、公認競技場として扱う。 3. 天然芝に人工芝を埋め込んだものを使用する場合は混入率5%以下とする。</p> <p>付則 1 競技場、長距離競走路、競歩路、室内競技場、屋外種目別陸上競技施設を国際陸上競技連盟(以下「IAAF」という。)認証を取得するときには、所定の計測後本連盟が申請をする。 2 IAAF認証のクラス1、クラス2競技場の資格を取得するための申請は、国内の第1種公認競技場でなければならない。ただし、公認競技会において世界記録およびエリア記録が樹立した場合は、第1種公認競技場以外でもIAAF認証のクラス2競技場の資格を取得するための申請をすることができる。</p>																							

第212回 国際陸上競技連盟(IAAF)カウンシル会議 報告

会長 横川 浩

第212回国際陸上競技連盟カウンシル会議(2017年11月25日/26日)がモナコで開催されたので、国際陸上競技連盟(IAAF)のカウンシルメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

1. Sebastian Coe会長挨拶

IAAF改革に向けた過去2年間の取組みは、各ステークホルダーから高い評価を受け、新たな組織の根幹を形成し、体制の強化に繋がっている。しかし、その歩みは継続、加速しなければならず、成長のためには改革が、そして、改革のためには革新的な考え方や取組みが必要である。IAAF事務局では、新たな財務、情報、普及の責任者を迎え入れ、体制を強化した。更に、ヘリテージという新たな部門を立ち上げ、陸上の遺産を守り、まずはIAAFイベントでの移動式エグジビションから始め、最終的には陸上博物館の創設を目指す。

2. ロシア問題

ルネ・アンデルセン調査団長から報告が行われた。資格停止処分解除のための条件については、一定の改善が見られたが、処分解除の条件となっている、マクラーレンレポートに対する説明義務が果たされていない事や、ロシアアンチドーピング機構が世界アンチドーピング機構から再認定を受けていない事から、資格停止処分の継続を決定した。

3. 2020年IAAF主催大会開催地

- 世界ハーフマラソン大会はポーランド・グディニヤに決定した(唯一の候補地)。
- 世界チーム競歩選手権大会はベラルーシ・ミンスクに決定した(唯一の候補地)。
- 世界室内陸上競技選手権大会には、中国・南京、セルビア・ベルグラード、ポーランド・トルンが立候補し、投票の結果、運営・財政基盤等が充実している南京に決定した。

4. IAAF規則と規定に関する承認事項

- 国籍変更に関するIAAF規則5.2 (b)、5.4 (d)、5.4 (e)の無効化と申請凍結の継続を決定した。
- 世界記録に関するIAAF規則261に次の種目を加える事とした。
 - 4×400m混合リレー(2017年に公認された最高記録を越える記録が、世界記録公認条件を全て満たした中で樹立された場合に認められる)
 - 5kmロードレース(2018年1月1日以降、男子は13:10、女子は14:45以下の記録が、世界記録公認条件を全て満た

した中で、出された場合には、世界記録として公認する。尚、2018年内に上記の記録が達成されなかった場合には、2019年1月1日現在の最高記録を世界記録として公認する)

- 2018アンチドーピング規程は、世界アンチドーピング規程の定義等の一部変更により、更新された。
- 広告及びマーケティング規定の2018年内の見直しを検討する。特に、選手のウェアへの、各MF及び各選手のスポンサーロゴの露出向上が検討される。

5. 委員会からの報告

- コーチコミッションが提案した、プロ或はボランティアコーチに対する“活動のためのライセンス”の導入や、アカデミーを運営するIAAF Academy Boardの創設が承認された。
- コンベティションコミッションがグローバルカレンダーの検討を継続して行い、ファンに分かりやすく、選手にとって負担のない競技日程を目指していく。世界選手権やオリンピックが、シーズン最後の大会となる事が理想であり、そのためにはある程度、世界選手権を含めたIAAF大会の開催時期を限定していく必要があると考えられている。
- IAAFワールドランキングの基本的な考え方について説明が行われた。IAAFの大会に於いて、従来の参加標準記録の代わりに、このランキングが採用される方向で、次の効果が期待されるとした。①複数の競技会実績から、信頼度の高い、透明性のある単一のランキングが決定され、選手のパフォーマンスが相対値で表される②大会のヒエラルキーや競技会システムが明確になり、例えばトップ選手がトップの大会に参加するようになる③ランキングを12か月という期間の記録と順位によって決定するので、選手の評価に信頼性がある。

6. その他

- アンチドーピング体制について、AIU(アスレティックス・インテグリティユニット)の監視下にある5か国(エチオピア、モロッコ、ベラルーシ、ケニア、ウクライナ)の状況が報告され、モロッコには改善が見られたとして、監視リストから除外する事に決定した。
- Disciplinary Tribunal(懲戒審判所)の独立した事務局として、Sport Resolutionsが承認され、2019年総会まで務める。現在の審判員は55名で、任期は2019年9月迄となる。
- IAAFブランド(ロゴや呼称)の変更について、検討を推進する。

第88回アジア陸上競技連盟(AAA)カウンシル会議 報告

会長 横川 浩

2017年11月16日に第88回アジア陸上競技連盟(AAA)のカウンシル会議がヨルダンで開催され、国際陸上競技連盟(IAAF)のカウンシルメンバーとして参加した。カウンシル会議には、IAAFセパスチャン・コー会長も出席し、その概要は以下の通りである。

1. コー IAAF会長挨拶

陸上界の発展には、アジア地域が団結して、世界を牽引していく事が不可欠である。若い実力のある選手の台頭は著しいが、隠れた才能を開花させる環境を作る事も重要な課題である。2019年には世界選手権がドーハで、2020年にはオリンピックが東京で開催され、陸上界の目はアジアに向いている。エリア活動の活性化には、IAAFとAAAが協調していく事は不可欠であり、今後、IAAFが導入するランキングシステムは、エリアのトップ選手を地元大会に呼び戻す効果があると期待している。

2. アジアの現状

ダーラン AAA 会長は、ロンドン世界選手権で、アジアが16個のメダルを獲得した事は価値が高いとした上で、更にアジア全体の實力を底上げするには、明確な強化、普及計画が必要であると。その手段の一つとして、アフリカ地域連盟と協定を結び、

普及プログラムや競技会への相互参加といった活動で協力する事を決定した。今後は、アジアで開催される競技会をよりレベルの高い魅力的な大会にする事に重点を置き、アジアの各地域別の活動や競技会開催も活性化させる必要がある。AAAの戦略計画はIAAFからも高い評価を受けているが、それを机上の空論に留めず、実現に移すと同時に、IAAFが取り組んでいる組織改革に沿って、AAAでも倫理規定や委員会の立ち上げに向けて動き出さなければいけないとした。

3. その他

今後のアジアの検討課題として、①競技会のフォーマット、特にアジアグランプリシリーズ ②IAAFコンチネンタルカップの選手選出方法(オセアニアとの協議) ③財政基盤の確立(スポンサー獲得) ④ITO(国際技術委員)資格者の増加 ⑤RDC(IAAF地域競技普及センター)のディレクターの選出と活動の充実 ⑥eラーニングの導入 ⑦アジア内各地域別の活動や定款の確認(大会のモデルケースとして、日中韓3ヶ国交流) ⑧大会開催地契約の実用化 ⑨2019年以降のAAA事務局の所在地(タイ・バンコクが候補)が挙げられた。

— JAAF の目的 —

陸上競技を通じてスポーツ文化の普及および振興を図り、
もって国民の心身の健全な発達に寄与し、
豊かな人間性を涵養する。

— 陸上競技の価値 —

陸上競技は、
さまざまなスポーツの基礎となる。
場所やレベルに関わらず、やる人、みる人を感動させる力を持つ。
人々のライフスタイルをアクティブにする力を持つ。

— JAAF ミッション —

国際競技力の向上
(トップアスリートが活躍し、国民に夢と希望を与える)
ウェルネス陸上の実現
(すべての人がすべてのライフステージにおいて陸上競技を楽しめる環境を作る)

— JAAF ビジョン —

2028 年
世界のトップ 8
アスレティックファミリー 150 万人

2040 年
世界のトップ 3
アスレティックファミリー 300 万人

LIVE ATHLETIC

よりアスレティックでいよう
ライブのアスレティックを体験しよう

JAAF

2017-2018ダイヤモンドアスリート認定式及び修了式 第1回リーダーシッププログラム 報告

ダイヤモンドアスリートコーディネーター 田原陽介(環太平洋大学)

ダイヤモンドアスリート (DA) とは、東京オリンピックに向けて中・長期的にエリートを育成するために選ばれた競技者です。選出された競技者は、陸上競技を通じて、競技的にはもちろん、豊かな人間性を持つ国際人となり、今後の日本および国際社会の発展に寄与する人材として期待されます。これらのことを達成するため、認定されたダイヤモンドアスリートには「アスリートプログラム」を必修として位置付けています。本稿では、2017-2018ダイヤモンドアスリート認定式及び修了式の様子と、第1回リーダーシッププログラムの内容を報告いたします。なお、詳細につきましては、日本陸上競技連盟ホームページ (<http://www.jaaf.or.jp/diamond/>; JAAFメディアチーム取材・構成) に報告されておりますので、ぜひ本稿と併せてご覧ください。

2017-2018ダイヤモンドアスリート認定式及び修了式

第4期 (2017-2018) 認定アスリート

【新規】 宮本大輔選手 (洛南高3年100m・200m)、塚本ジャスティン惇平選手 (城西大城西高2年・東京、100m・200m)、井本佳伸選手 (洛南高3年・京都、200m・400m)、クレイ アーロン 竜波選手 (相洋高1年・神奈川、800m)、中村健太郎選手 (清風南海高1年・大阪、やり投)、藤井菜々子選手 (北九州市立高3年・福岡、競歩)

【継続】 第3期からの継続となる橋岡優輝選手 (日本大1年・東京、走幅跳)、江島雅紀選手 (日本大1年・神奈川、棒高跳)、池川博史選手 (筑波大1年・兵庫、やり投)、高松智美ムセンビ選手 (薫英女学院高3年・大阪、3000m)、長麻尋選手 (和歌山北高3年・和歌山、やり投)

第3期 (2016-2017) 修了アスリート

【修了】 サニブラウン アブデルハキーム選手 (東京陸協、100m・200m: 9月より米国・フロリダ大へ進学)、山下潤選手 (筑波大2年・福島、100m・

200m)、犬塚渉選手 (順天堂大2年・静岡、100m・200m)、北口榛花選手 (日本大2年・北海道、やり投)

※サニブラウン選手は強化競技者となったことから、いわゆる“飛び級”で修了することになりました。

まず、日本陸連理事の室伏広治氏 (東京オリンピック・パラリンピック組織委員会スポーツディレクター) が登壇し、「単に競技力を向上するだけでなく、国際的なコミュニケーション能力を高めて、もっともっと世界に羽ばたいていていただきたい」と挨拶しました。

続いて、ダイヤモンドアスリート認定制度を担当する麻場一徳・日本陸連強化委員会強化育成ディレクターより「選手の皆さんは、これを機に、気持ちを新たにして、さらに素晴らしいアスリートを目指して頑張っていたきたい」と激励をしました。

その後、石塚浩タレントマネージャー総括が、2017-2018認定アスリートを発表し、飯塚翔太選手 (ミズノ) が各選手に認定証を授与。続いて、修了者3名に、修了証が手渡されました。

最後に、江島雅紀選手 (日本大) が「私たち一人一人が、“この陸上界の歴史を動かす” という強い信念を持ち、これからも日々精進していきたい」と代表して決意の言葉を述べました。

第1回リーダーシッププログラム

講師: 野村忠宏 (ミキハウス)

参加者: DA認定式修了式参加13名とDA修了生本武選手 (順天堂大)、平松祐司選手 (筑波大)、佐久間滉大選手 (法政大)

東京マラソン財団スポーツレガシー事業として、全4回行われるリーダーシッププログラムの第一回は、柔道家の野村忠宏氏 (ミキハウス) を講師に招き、為末大さん進行のもと行われました。

まず、野村氏が自身の競技人生を振り返りながら、競技者としての転機や競技人生の中で考えていたことを紹介しました。

野村忠宏氏講話（要旨）

- ① 弱くて周りからも期待されなかったが、柔道をやめる考えは全くなかった。また、「今は弱いけど、得意技を磨こう」「今、諦めるのはもったいない、自分ならできる」と自分を信じていた。
- ② 強くなるためには「意味のある練習」と「意味のある努力」ができていくかどうかが重要になってくる。しかし、それは自分では気づけないケースがあり、気づかせてくれる人との出会いが転機になることもある。
- ③ 常に注目され、プレッシャーがかかるなかで、自分を進化させていくことを心がけること。試合に臨む恐怖や緊張感を当り前のものとして、自分の可能性を信じて継続すること。

次に、為末大氏を進行役として、為末氏と野村氏のトークセッション、選手からの質疑応答で第一部が終了しました。

第二部として、坂井氏（株式会社ホープ）より野村さんの話を受けて、得られた情報のシェアと他者と自分と

の価値観の照らし合わせがされました。次に、為末氏から参加者との双方向型の講話が行われました。今後生活の中で気を付けてほしいこととして、

- ① 陸上競技・学校以外のスポーツに関係ない知り合いを多く作ること。それによって、陸上競技を様々な方向から見てくれ、キャリアを含め様々な相談をすることができる。ただし、反社会勢力にはくれぐれも気を付けること。
- ② 自分の行っていることを陸上競技以外で説明できるような考えを持つこと。目標を達成するPDCAサイクルは引退したあとに貴重な財産になる。
- ③ 問題の本質をとらえること。シーズンの反省などを自分で何度も繰り返し、内省できる選手のみが問題の本質にたどり着くことができる。
- ④ テクノロジーの世界に興味をもつこと。技術革新が日進月歩している世の中で、スポーツにテクノロジーが入ってくる可能性が高い。専門誌等をSNSでフォローし情報収集する必要がある。

ダイヤモンドアスリート認定式と第1回のリーダーシッププログラム、栄養プログラムで本制度がスタートしました。陸上界から真のエリートを育成・輩出するために、今後もプログラムを実践していきたいと考えます。今後ともご支援・ご指導よろしくお願いたします。



Don Babbitt 氏 回転投法クリニック報告

大山圭悟（筑波大学：医事委員会トレーナー部委員）、岡野雄司（日本大学：強化委員）

日時：平成29年11月11日（土）、12日（日）

会場：東京都世田谷区桜上水 日本大学文学部

参加者：シニア競技者、U20オリンピック育成競技者、U20オリンピック育成競技者の指導者、進行補助および見学の学生

コーディネーター：岡野雄司（日本大学）、高梨雄太（順天堂大学）

通訳：大山圭悟（筑波大学）、大久保託磨（日本大学3年）

はじめに

世界のトップレベルの競技会において、近年徐々に存在感を増してきた回転投法であるが、2016のリオオリンピックでは男子でメダルを独占、2017ロンドン世界選手権においては、男子のベストエイトは全員回転投法という状況となっている。さらに女子のトップレベルでもロンドン世界選手権で銀メダルを獲得するなど、その存在感はますます大きくなっている。今回クリニックの講師を務めた米国ジョージア大学のDon Babbitt氏はこの躍進のきっかけとなった選手育成や普及活動において中心的な役割を果たしてきたコーチである。今回のクリニックには国内トップレベルのシニア競技者、高校で活躍しているジュニア競技者とともに、高校で指導に取り組みされているジュニアの指導者にもご参加頂き、意見交換とともにBabbitt氏の指導を受ける貴重な機会となった。

〈日程の概要〉

●11月11日

- 8:30 集合（日本大学陸上競技場）
- 9:00-10:30 講義（会場：百周年記念館 2階会議室2）
砲丸投回転投法における技術タイプの分析とトレーニングについて
- 10:30-11:45 実技（日本大学陸上競技場） 投擲練習とビデオによる分析撮影（立ち投げ→フルターン）
- 11:45-13:15 昼食
- 13:15-15:15 実技（日本大学陸上競技場） 投擲練習とビデオによる分析撮影
- 15:30-18:00 ビデオ分析および質疑応答（日本大学陸上競技場） 今後のトレーニング方法の紹介や技術の修正

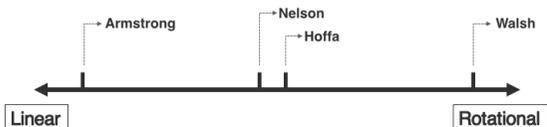
●11月12日

- 10:00-11:30 実技（日本大学陸上競技場） 回転投法の実技とその撮影、回転投法特有のテクニカルドリル Half turn, Step in, Static start の実践
- 11:45-13:00 ビデオ分析（日本大学陸上競技場） ビデオの分析と解説とそれを踏まえた今後の目標に応じた技術やトレーニング指導
- 13:30 解散

〈講義・実技の概要〉

●回転投法に関する新しい視点

Babbitt氏の指導の特徴として、ビデオ映像を用いた、動作局面ごとの詳細な姿勢や、身体部位の方向などについて明確な基準を持って確認していくスタイルが挙げられるが、今回も、そ



のような取り組みについてはこれまで同様に見受けられた。しかしながら、数多くの事例を整理し、様々な成功例を観察する中で、回転投法自体の中に「タイプ分け」が可能であることについて、今回はこれまでよりもさらに詳しい説明があった。特に興味深かったのは投げのタイプのContinuum（連続体）の考え方で、その概要を図1に示す。これは、近年世界で大きな成功を収めた回転投法の競技者について、投げの動き全般がグライド投法のように投げ方向の移動が強調された「直線的な動き」の要素が強いのか、「回転の要素」が強いかを直線上に示したものである。これを見てわかるのは、Dylan Armstrong(CAN)がもともと直線的で、リオオリンピックチャンピオンのRyan Crouser(USA)も比較的直線的な投げであること。ロンドン世界選手権優勝のTomas Walsh(NZL)は非常に回転の要素が強い選手で、Babbitt氏の指導のもと、これまで非常に高いレベルで活躍してきたAdam Nelson(USA)やReese Hoffa(USA)は比較的直線回転両方の要素をバランス良く利用しているということである。講義においては、このような投げのタイプ分けと、それに対応したフットワークの差について、事例を交えた説明が行われた。



図2 左足加重姿勢からターンを開始する Static start drill. (森下大地選手)



図3 力投する中村太地選手

●技術練習の工夫

Babbitt氏の技術指導に関する情報整理の特徴は、分習法の活用根ざしているように見受けられる。今回の指導においてもターンからの投げに関して、全体として投げの全局面を通しての練習以外に Half turn, Static start（図2）に代表されるような、動作の開始点を投げの途中に置く制限を設けて、課題の抽出や、特定の技術要因の練習を行いやすくする工夫が見られた。

一連のクリニック開催を重要な契機として、本邦においても、今年度すでに2名の男子競技者が回転投法によって18m突破を成し遂げている。Babbitt氏も日本の競技者の躍進を実感されており、さらなる成果が期待される。

国際陸連(IAAF)キッズアスレティックス セミナー参加報告

普及育成委員会 普及育成部 岸政智

この度、国際陸上競技連盟(以下、IAAF)の国際陸上競技連盟地域発展センター北京(以下、RDC Beijing)が主催する標記セミナーに参加させていただく機会を得たので、以下に報告をさせていただきます。

1. 名称 IAAF キッズアスレティックス セミナー
2. 開催場所 中国・深圳ユニバーシアード陸上競技場および珠海市体育運動学校
3. 期日 2017年11月19日～21日
4. 主催者 IAAF RDC Beijing Mr. SUN Nan, Mr. Wong Lin
5. 参加者 中国、マカオ、モンゴル、香港、ベトナム、(韓国・台湾はビザの関係で急遽キャンセル)、日本(2名:小林敬和、岸政智)計14名、ほかRDC Beijing事務局員、珠海市体育運動学校幹部
6. 日程 11月19日 中国のキッズアスレティックス全国決勝大会の視察(深圳)
11月20日 各国で行われているキッズアスレティックスの現況発表と質疑応答(珠海)
11月21日 アジアでキッズアスレティックスを更に発展する為の意見交換(珠海)

7. セミナーの概要

11月19日は、深圳で行われた中国のキッズアスレティックス全国決勝大会を視察した。日曜日ということもあり、競技会は選ばれた学校のリレー競技と持久走、そして表彰式のみだった。見学はできなかったが、前日にはキッズアスレティックスの種目をやっていたようだ。スラロームや障害物などを使用しリングバトンでのチーム対抗戦、一定時間で多くの回数を前後左右にジャンプするクロスホッピングや立ち三段跳び、投運動ではジャベリックボール(日本のものより重量が軽い) やスポンジ素材のジャベリックを使用していた。この競技では遠くに投げるのではなく、2.5mほどの高さのバーを越えて落下場所により加点され、合計得点やチームでの対抗戦を行っており、随所に子ども達の興味を誘う仕組みが感じられた。

11月20日は、珠海市体育運動学校にて、各国で展開しているキッズアスレティックスの現状報告(プレゼンテーション)を行った。日本の活動としては、大きく3つの活動を報告した。日本選手権(2016:名古屋瑞穂、2017大阪長居)やIAAFグランプリ(2016、2017共に川崎等々力)で行った、キッズデカスロン(キッズアスレティックスの中の10種目を経験する)チャレンジ、略してデカチャレを紹介した。2つ目は、日本陸連普及育成委員会普及育成部で、

年間11会場を回り各地域の子ども達に向けて実施している、キッズアスレティックスの内容に準拠したU-13クリニックを紹介した。3つ目は、IAAFのコーチ教育認証制度(Coaches Education & Certification System)のレベルIコーチ資格を持つ有志の指導者達で、東京都内区教育委員会や東京都立公園協会さらには東京マラソン財団スポーツレガシー事業と連携をし、都内小学校、都立公園や東京マラソンのコース沿道の学校で行ったキッズアスレティックスの活動を紹介した。各国のプレゼンとも共通していたことは、行政や教育システムの違い、場所の確保や用具の不足が慢性的であることなどの問題点があげられた。しかしながら、少しでも良い情報を得ようとお互い真剣な質疑応答の場となった。

11月21日は、珠海市体育運動学校にて、キッズアスレティックスをアジアで更に発展させる為の意見交換を行った。各国がいかに前日の諸問題に向き合い更に発展すべき方策に取り組むために、キッズアスレティックスのアジア連携組織を立ち上げる構想がRDC Beijing各位や日本から参加したIAAF上級講師でもある小林らから提案され参加者の賛同を得た。さらにRDC Beijingからはこうした課題を各国に持ち帰り、関係機関やIAAF CECSレベルIコーチと連携しキッズアスレティックスの普及に努めるよう要請があった。

8. 所感

中国のキッズアスレティックス全国決勝大会の視察では、内容が日本の小学生陸上とは大きく違っていた。初日がキッズアスレティックスで体験や交流の活動があり、2日目が学校対抗のリレーと持久走(集団走方式)ということで、非常に楽しそうに競技を行っていた印象があった。また表彰では、多くの子ども達が表彰台に上り受賞していた。司会は子どもが行い、学校単位で表彰台の上で写真撮影を行うなどしていた。日本ではトップ8のみが表彰されるが、なるべく多くの子ども達に良い思い出なるような工夫が感じられた。

セミナーでは、多くの意見を求められ、また回答することに努めた。大変ではありましたが、その一つひとつが2020年東京オリンピックやそれ以降の活動に、非常に重要であると強く感じた。本セミナーを通し、海外の指導者との交流ができ、同じ思いを共有できたことも非常に貴重な経験となった。短い期間でしたがその経験を糧として、今後も日本でのU-13クリニックやキッズアスレティックスの諸活動に参加し、発展するよう努力していきたい。最後に、本セミナーに参加する機会をいただいた日本陸連関係各位と、RDC Beijingの先生方および珠海市体育運動学校の関係者、セミナーに参加した各国の先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げたい。



大会視察集合写真



大会の様子(持久走)



セミナー集合写真



閉会式の様子

2017年度 日本陸上競技連盟 競技運営委員会研修会

日本陸上競技連盟 競技運営委員会

東京2020競技役員研修会/NTO 資格取得研修会

2017年11月18日(土)、19日(日) 味の素ナショナルトレーニングセンター

〈第1日(11月18日)〉

○主催者代表挨拶・開催に際しての趣旨説明

鈴木 一弘 理事・競技運営委員長

- ・準備期間を含むオリンピック・パラリンピックの期間に従事できることが条件
- ・競技役員としての部署の希望は聞かぬが、必ずしも希望通りにはならない
- ・現場審判員として参加する為には、今回取組むNTO資格を取得する事が必須条件。ただし、今回の研修会への参加が、東京オリンピック・パラリンピック競技役員委嘱の内定ということではないことをくれぐれもお含み置きたい



○競技規則基礎知識テスト(60分)

日本版ルールブックの参照は可
2017年度日本陸連競技規則〔国内〕で解答

○IAAF準拠TOECS講習(NTOレベル)(180分)

講師 関 幸生 (IAAF認定レクチャー)

競技役員として知っておくべきルールの基本
国際ルールと国内ルールの相違点
2018年IAAFルールの修正のポイント



○JAAF東京2020競技役員候補者講習(180分)

講師 鈴木一弘(理事・競技運営委員長)

オリンピック競技大会の特徴
オリンピック競技大会の運営体制
国際ルールと国内ルールの違い
広告展示物に関する規程

〈第2日(11月19日)〉

○TOECS認定試験(120分)

英日版のルールブック参照可

国際ルールで解答。〔国内〕は適用しない

2018-2019年新ルールにて解答
(NTO試験に取り組み受講者)



○基礎知識テストポイント解説(競技運営委員会)

第一日目に実施した基礎知識テストで重要な論点についてポイントを解説

NTO試験に比べ、難しかったとの感想が多数

○実技講習の実施について(鈴木委員長)

2018年度から開始される実技研修について、現状と実施要領案を説明

○事後課題の実施について(競技運営委員会)

NTO試験では口頭試問が課されており、それに変わるものとして事後課題をWebにより実施する

出席者それぞれに違うオリジナル問題を出題するので、11月30日23:59までに解答のこと

〈評価(合否)について〉

○評価(合格)基準(TOECS Level I Assessment)

- ・知識 80点満点で60点以上
- ・事後課題 20点満点で10点以上

○最終結果

2月度受験者の成績が確定次第、受講者本人と所属加盟団体宛に通知の予定

〈受講者の声〉

- ・基礎試験のあと、同県の参加者が「まずいかも！」と言って夕飯も一緒に食わずに勉強していた
- ・今朝、ホテルの朝食会場で、他県の方が「ホテルでこんなに勉強したの、初めてだ」と言っていた
- ・刺激になった、火が付いた

〈参加者〉(11月実施分)

加盟団体推薦者	108名
JTOs(競技運営委員会所属者を除く)	29名
JRWJs(競技運営委員会所属者を除く)	27名
EPseminar2016参加者	4名
競技運営委員会委員	26名

(合計 194名)

JAAF アスレティックス・アワード 2017 報告

事務局



2017年12月19日(火)に「JAAF アスレティックス・アワード2017」をセルリアンタワー東急ホテルにおいて開催いたしました。

本表彰式は、その年の日本選手権優勝者の栄誉を称えるとともに、国内外の大会での活躍が顕著であった競技者や陸上競技を通じて社会に貢献した競技者・関係者を表彰するもので、今年で11回目を迎えました。

当日は、選手57名と日ごろから陸上競技界をご支援いただいているスポンサー各社、関係者の方々、そしてファンの皆さまなど、約270名様にご出席を賜り、受賞者をお祝いするとともに、ご出席者同士での交流を深められていました。

〈受賞者一覧〉

■ Athlete Of The Year

- ・荒井広宙(自衛隊体育学校)



Athlete Of The Yearを受賞した荒井広宙選手へのプレゼンターは日本陸上競技連盟会長 横川浩

■ 優秀選手賞

- ・第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)男子4×100mリレー 日本代表
多田修平(関西学院大学)、飯塚翔太(ミズノ)、桐生祥秀(東洋大学)、藤光謙司(ゼンリン)、ケンブリッジ飛鳥(Nike)
- ・サニブラウン アブデルハキーム(東京陸協)

■ 新人賞

- ・多田修平(関西学院大学) / 東京運動記者クラブ選出(男子)
- ・安藤友香(スズキ浜松AC) / 東京運動記者クラブ選出(女子)
- ・小林快(ビックカメラ) / 日本陸上競技連盟選出

■ 特別賞

- ・桐生祥秀(東洋大学)



ファン投票1位桐生選手、2位多田選手、3位藤光選手には、日本陸上競技連盟アスリート委員会代表の高平慎士さん(富士通)が盾を授与

「アスレティックス・アワード2017」各受賞者コメント、動画、ファン投票TOP10などは日本陸連公式WEBサイトをご覧ください!

<http://www.jaaf.or.jp/> 又は、 **アスレティックス・アワード 2017**

検索

2017年度 全国区域技術役員会議 報告

施設用器具委員会

日時 2017年11月25日(土)、26日(日)
場所(会議) 日産スタジアム・横浜スポーツ医学科学センター3階
大研修室・会議室

(実技) 日産スタジアム付設投てき場

出席者 施設用器具委員会委員(13名) 都道府県推薦技術役員(95名)
日本陸上競技連盟事務局 大喜田洋一郎 井上博友
榎田竜之助

施設用器具委員会では、全国検定会議と全国区域技術役員会議を隔年で開催しており、2017年度は全国区域技術役員会議を実施した。各都道府県陸協より95名が推薦(新規13名)され、2日間の会議に参加した者が2018・2019年度の技術役員として活動していくことになる。以下は2日間の会議の概要である。

【第1日】司会：苅込幹事

◇配布物◇ 全国技術役員会議資料冊子 申請用紙一式
記録用紙一式 アンケート

◇開会◇ 施設用器具委員会 副委員長 福島信久

◇挨拶◇ 施設用器具委員会 委員長 高木良郎

東京オリンピックに向けて国立競技場の建設も進んでいる。ストリート陸上が可能になるよう規則改正した。投てき対応人工芝の導入を検討している。使用する器具の規格の適正な管理の課題もある。本部に技術役員3名を迎え新しい体制とした。今日の議題もこの3人の意見を参考にしている。

技術役員は日本陸連のメンバーとして検定業務を行う、重要な役割である。各陸協から95名推薦され新人13名となっている。今回の出席者が来年4月から委嘱される。盛りだくさんだが研鑽を深めてほしい。

◇会議◇

(1) 検定制度と技術役員の心得 講師：高木委員長

1. 検定制度とは

① 公認制度を設ける目的

歴史は古く、十分な精度で適切な施設として公認された競技場でないと記録は公認されない。

② 検定とは

検定制度により全国どこでも同じ条件ですべての種目の競技会を行うことができる。

③ 国際陸連 (IAAF) の認証制度

日本陸連の制度をもとにしている。競技器具、投てき器具、全天候舗装材、陸上競技場の4つの認証がある。

2. 検定に関する規則

① 規則の体系

競技規則にしたがい規程・基本仕様・細則が決められている。

② 公認競技場の種別

競技場の種別は第1種から第4種までであり、開催可能な競技会の規模が違ふ。

3. 検定員及び区域技術役員の役割

4. 技術役員としての心構えについて

5. 検定手続きの流れ

申請書の提出から検定、公認証の交付までの流れの説明。

6. 技術役員の地元陸協の連携と大会での審判活動について

検定申請書の提出など地元陸協と連携できる仕組みを作りたい。技術役員としての知識を生かし、積極的にみなさんが競技会で技術総務・公式計測員・用器具係等をやっていたとありがたい。

(2) 陸上競技検定の基礎知識 I

経験年数によりA班、B班に分かれ、陸上競技場の基礎に関する講義(A班)、距離計算のテスト(B班)を行った。

A班…グラウンドの基礎知識と1周の距離 講師：米岡委員

計測地点、巻尺の特性、1周の距離の計算方法の説明。

B班…距離計算のテスト 講師：苅込幹事

(3) 陸上競技検定の実技 講師：本部検定員

14:15~16:45の3時間。経験年数により6つの班に分かれ、距離計測・レベル計測・角度計測・施設計測の実技を投てき場で行った。

(4) 陸上競技検定の基礎知識 II

A班…基本的な計算実例 講師：米岡委員

1周の距離の計算実例。

B班…距離の実長計算及び考え方 講師：苅込幹事

距離計算のテストの解答、計算の注意事項。

【第2日】司会：苅込幹事

◇会議◇

(5) 検定時の注意事項と報告書等の適正な記入方法 講師：鈴木特別委員
公認に関する注意事項・公認期間・延期等の扱い、保留・条件付、

諸届に関する注意事項、実測報告書等記載の注意事項の説明。保留期間中は公認競技会を実施することはできない。申請書はこれまでと少し変わっているので注意。実測報告書等記載は、しっかり確認して書くように。

(6) 陸上競技場検定の基礎知識 III 講師：山口幹事

報告書の作成テスト。資料に基づき報告書の作成。解答の配布。

(7) 規則変更に対する対応 講師：高木委員長

陸上競技場以外での陸上施設での競技を認めた。規定(3種以上)に合うようにしなければならない。室内陸上競技場公認に関する細則の変更となった。細則の改正の対応についての説明。インフィールドの芝について、ハイブリッド芝は可能にする方向、投てき実施可能な人工芝は認める方向に。

(8) 長距離競走路の検定方法 講師：福島副委員長

自転車計測とワイヤー計測についての説明。最短距離を計測する。セパレーション・エレベーションについて。大会当日と同じコースを計測すること。

(9) 競技会での用器具の検査 講師：高沼副委員長

競技会での用器具の検査についての説明。やり検定器を用いたやりの検査の実例。やりの持ち込み検査では外国製の物は注意を。

(10) 海外の動向 講師：高木委員長

世界陸上・ストリート陸上視察の報告及びIAAFの動向の説明。写真を交えて現地での視察の報告を行った。

◇質疑応答◇

・長距離競走路でどのくらいまでが一部変更となるか?

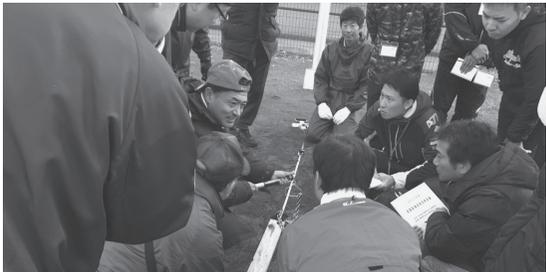
→距離の3分の1以内であれば一部変更となる。

◇修了書授与◇代表で齋藤氏(栃木)に代表で修了証を授与。

◇挨拶◇ 高木委員長

会議の内容を今後の検定に役立ててください。この会議に参加した方は2018・2019年度の技術役員に推薦し、活動をしていただく。

◇閉会◇施設用器具委員会 副委員長 高沼正利



全国区域技術役員会議の様子

大会観戦ガイド

第37回大阪国際女子マラソン大会

兼ジャカルタ2018アジア競技大会日本代表選手選考競技会

兼第102回日本陸上競技選手権大会女子マラソン

兼 マラソングランドチャンピオンシップシリーズ 2017-2018

～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～

- ▼日時：2018年1月28日（日）12時10分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
大阪・ヤンマースタジアム長居
大阪市東住吉区长居公園 1- 1 TEL：06-6691-2500
- ▼コース：ヤンマースタジアム長居～昭和町～今川2～
大池橋～勝山4～森ノ宮～OBP～北浜～大阪役所
～御堂筋・道頓堀橋南詰折り返し～淀屋橋～片町～大
阪城公園～森ノ宮～勝山4～大池橋～今川2～昭和
町～ヤンマースタジアム長居(42.195km)
- ▼アクセス：ヤンマースタジアム長居
市営地下鉄御堂筋線「長居」駅、
JR阪和線「長居」駅または「鶴ヶ丘」駅下車
- ▼テレビ放送予定：関西テレビ系（全国ネット）
1月28日（日）12時00分～
- ▼問合せ先：大阪国際女子マラソン大会事務局
TEL：06-6633-9632
- ▼大会公式サイト：<http://www.osaka-marathon.jp/>



昨年度の大会は重友梨佐が優勝

2018 U20日本室内陸上競技大阪大会

- ▼期日：2018年2月3日（土）9時30分競技開始
2月4日（日）9時30分競技開始
- ▼会場：大阪・大阪城ホール
大阪市中央区大阪城3-1 TEL：06-6941-0345
- ▼アクセス：JR大阪環状線大阪城公園駅下車徒歩5分
- ▼競技種目：
【2月3日（土）】
中学生の部
男子 60m 60mH 走幅跳 棒高跳
女子 60m 60mH 走幅跳
U20の部
男子 60mH 三段跳
女子 60mH
【2月4日（日）】
U20の部
男子 60m 走高跳 棒高跳 走幅跳
女子 60m 走高跳 棒高跳 走幅跳
- ▼問合せ先：大阪陸上競技協会
TEL：06-6697-8899
- ▼日本陸連WEB内大会ページ：
<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1217/>



昨年度は男子ジュニア棒高跳で江島雅紀が大会新をマークした

JAAF
TOCHIGI

一般財団法人栃木陸上競技協会

〒321-0151 宇都宮市西川田6-4-37 株式会社 鈴和 三階
TEL.028-612-8594 FAX.028-612-8549
http://www.jaaftochigi.jp/

本県陸上界のスーパースター海老原有希(スズキ浜松AC)の、第72回愛媛国体陸上競技会終了後、突然の引退発表に大変驚きました。とても残念であり、寂しさを感じるしだいです。本当にご苦労様でした。

海老原選手は、やり投げの日本記録保持者として、永年に涉り日本代表選手として、また、本県の代表「ふる里選手」として、これまで各大会で素晴らしい活躍され、多くの選手から目標とされ、人間性豊かで親しみやすい選手でした。

オリンピックは、2012ロンドン・2016リオと2大会に出場。世界選手権は、2009ベルリン・2011テグ・2013モスクワ・2015北京・2017ロンドンの5大会出場。アジア大会は、2006ドーハ・2011広州・2014仁川の3大会出場するなど、日本代表選手として活躍されました。また、多くの県民の皆様へ感動や元気を与えていただきました。心より感謝申し上げます。

これからは、日本陸上界の指導者として、陸上競技の発展と選手育成等において、大いに活躍することを期待しております。



(写真提供：下野新聞社)

(文責：理事長 大谷津薫)

JAAF
SAITAMA

一般財団法人埼玉陸上競技協会

〒362-0034 上尾市愛宕3-28-30 上尾運動公園陸上競技場内
TEL.048-771-4248 FAX.048-772-4566
http://sairiku.net/

埼玉陸上競技協会として、平成29年12月に記念誌「世紀を越えて」～埼玉陸上競技80年の歩み～を、発刊しました。3年前から塩田征夫埼玉陸協副会長を中心に編集委員会を発足し、ここに329ページにわたる記念誌が完成しました。

埼玉陸上競技協会の誕生は昭和21年で、本年で72年目を迎えました。「埼玉陸上競技80年の歩み」とありますが、実際には100年以前から歴史が始まっています。「陸上王国埼玉」の歴史と伝統についてまとめました。

競技会情報としては、平成29年11月12日に「第3回さいたま国際マラソン」がさいたまスーパーアリーナ、スタート&フィニッシュで開催されました。「代表チャレンジャーの部」では、チェイエチ・ダニエル選手(ケニア)が2時間28分39秒(参考記録)で2連覇を達成しました。日本人トップの岩出玲亜選手(ドーム)は2時間31分10秒(5位)に終わり、東京五輪代表につながる「MGCシリーズ」に出場権を逃しました。

代表チャレンジャーの部、一般フルマラソンの部合わせて、14395名のエントリーがあり、当日は多少気温も高く、マラソンにとってベストコンディションというわけではありませんでしたが、約6000人のボランティア、埼玉陸協競技役員が一丸となり競技運営に当たりましたが、ゴール直前に優勝を争っていた2人が誘導ミスにより、コースを逸脱し参考記録と致しました。(順位には変更なし)関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。反省を次回の大会に生かしてまいります。

(文責：総務委員会 木村一也)

JAAF
GUNMA

一般財団法人群馬陸上競技協会

〒370-0871 高崎市上豊岡町145-5 今井酒店 気付
TEL.027-345-7790 FAX.027-345-7791
http://gold.jaic.org/gunma/index.html

今年度のTrack & Fieldの最大ニュースは、なんとと言っても男子円盤投で堤雄司選手(群馬総合ガードシステム)が、全日本実業団対抗陸上競技選手権大会において、38年ぶりに日本記録を更新したことです。記録は、60m74でした。また、増野元太選手(ヤマダ電機)が、110mHで日本記録にせまり、世界陸上準決勝進出を果たしました。全国高等学校陸上競技対校選手権大会では、白尾悠祐選手(東京農業大学第二高等学校)が、400mHで2連覇を達成しました。全日本中学校陸上競技選手権大会では、古澤一生選手(高崎市立新町中学校)が、棒高跳で2連覇を達成しました。古澤選手は、県中学総体において、4m93の日本中学新記録も樹立しました。

紙面が発表される頃は、各種駅伝大会の結果が出ていると思います。中でも、ここ数年全国道府県対抗女子駅伝競走大会は、優勝候補にあげられながらも一歩の成績でした。なんとしてでも、皇后杯を群馬県庁に持ち帰りたいと願っています。

元日のニューイヤースタートでは、コースが一部変更となりますが、事故やトラブル等が発生しないように、群馬陸協をあげて、全力で審判業務にあたります。

JAAF
CHIBA

一般財団法人千葉陸上競技協会

〒263-0011 千葉市稲毛区天台町323
千葉県総合スポーツセンター 国際千葉駅伝事務局内
TEL.043-252-7311 FAX.043-252-7314
http://www.jaaf-chiba.jp/

若い力が大活躍 ～東日本女子駅伝～

第33回東日本女子駅伝は、天候にも恵まれ11月12日(日)に福島市で行われました。本県チームは1区加世田選手が区間3位と好スタート、その後どの区間も先頭を争う緊迫した展開となりました。その中で、2区木村選手、5区風間選手、6区上田選手、8区南選手は区間1位の力走を見せ、トップで9区アンカーの関谷選手に襷が渡り、関谷選手も区間1位の走りで2年ぶり9回目の優勝を飾ることができました。

今回優勝した本県チームは、9人の平均年齢が17.7歳と過去最年少のチームです。これは毎年2月に開催されるクロスカントリー大会など、長年取り組んできたジュニアの強化によるものです。この結果が弾みとなり、今回の若い力が数年後に広島・京都の全国都道府県駅伝の優勝を実現させてくれると思います。

「伸びろ若い力!」「目指せ、日本一!」

(文責：強化委員会駅伝部長 滝田輝行)



事務局からのお知らせ

◆◆日本陸連ファン投票「Most Impressive Athlete 2017」結果のお知らせ◆◆

「2017年一番印象に残った選手は誰だ!?!」というテーマにて今回もファン投票を実施。4461票の応募をいただきありがとうございました。今回もTOP 3をご紹介します。

- 第1位 桐生祥秀（東洋大学）
- 第2位 多田修平（関西学院大学）
- 第3位 藤光謙司（ゼンリン）

その他の結果とTOP 3のコメントはこちらでご確認ください。

<http://www.jaaf.or.jp/news/article/11079/>



◆◆メールマガジン配信中!◆◆

日本陸連公式メールマガジンを好評配信中です。
登録は<https://mm.jaaf.or.jp/mailmagazine/>か、右のQRコードから!



陸連時報編集委員

◇編集委員

- 横川 浩（陸連会長）
- 友永 義治（陸連副会長）
- 八木 雅夫（陸連副会長）
- 尾縣 貢（陸連専務理事）
- 麻場 一徳（陸連強化委員長）
- 風間 明（陸連事務局長）
- 早川 大介（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

- 大嶋 康弘
- ◇時報編集担当
- 繁田 進
- 石塚 浩
- 青木 和浩
- 宮田 宏
- 廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>